

◎注意事項をよくお読み下さい

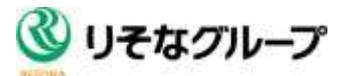
りそなマーケットフラッシュマンズリー

(2017年10月号)

No.3

2017/09/29

りそなホールディングス 市場企画部



○今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは9月29日(金) 9:00現在

		9月28日現在 (矢印は8月末比)	今月の予想 (10月2日~10月31日)
為替相場	ドル・円 (円)	↗ 112.34	上昇 ↗ 109.00 ~ 116.00
	ユーロ・円 (円)	↗ 132.41	下落 ↘ 128.50 ~ 136.00
株式相場	日経平均 (円)	↗ 20,363	もみ合い ↻ 19,250 ~ 21,000
	NYダウ (ドル)	↗ 22,381	もみ合い ↻ 21,750 ~ 23,000
長期金利	日本 (%)	↗ 0.07	もみ合い ↻ 0.00 ~ 0.12
	米国 (%)	↗ 2.31	上昇 ↗ 2.10 ~ 2.50

○今月の注目ポイント

日本の解散総選挙と米国の税制改正論議が金利に影響

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	<p>【景気動向】米国経済はハリケーンの影響から一部下振れているものの、マインド関連のデータは引き続き底堅く、影響が長期化する可能性は後退している。10-12月以降は復興需要から、上振れが期待されやすい。</p> <p>【物価動向】賃金やCPIの鈍化傾向が継続しているが、徐々に下げ止まりの兆しが見られており、物価に対する認識が変化すれば金融政策に影響。</p>
金融政策	○	<p>【FOMC】10/31-11/1 FOMCでの政策変更は見込まれていないが、12月に向けて利上げの地ならしが進められる可能性がある。直近の税制改正への評価が高いようであれば先行きの利上げ観測が高まりやすい。</p> <p>【ECB】10/26 ECB理事会では今後の量的緩和縮小について議論が進められる公算が高い。但し、ユーロ高が景気に与える悪影響も警戒されており、タカ派と捉えられる内容とはならないであろう。</p>
政治	◎	<p>【米国政治】9/27公表の税制改革案を受け、予算案審議の動向に注目。税制改革を巡る議論は「結局頓挫」から「いずれ成立」に切り替わっている。10月中旬にかけての予算委員会の議論の過程で実現可能性が高まるようであれば、米金利に上昇圧力がかかりやすい。</p> <p>【日本政治】衆院解散総選挙を控えて、選挙情勢に関心が集まる。また日本の財政再建も注目されやすい環境となっている。</p>
その他	△	<p>【テクニカル】季節性の観点から秋にかけてボラティリティが高まりやすい。</p> <p>【地政学リスク】10/10北朝鮮労働党記念日前後は神経質になりやすい。</p>

今月の見通し

為替	<p>【ドル円】ハリケーンの影響が一時的にとどまり、ファンダメンタルズが良好。税制改革の議論進展により来年以降の成長率見通しが高まり、利上げ見込みが上方修正されやすい局面。ドルの買戻し圧力は強く、ドル円はじり高を見込む。</p> <p>【ユーロ】ドルの買戻し圧力が強いなか、ユーロは上値の重い展開。ドイツの連立工作が長期化していることも重石となり、じり安推移を見込む。月末にかけては、10/26のECBでの量的緩和縮小論議が注目され、徐々に下げ渋りとなる。</p>
株式	<p>【日本株】10/22の衆院解散総選挙は、新党の影響等の見極めが困難で、動きづらい。米国株や為替動向に振られるも、方向感の出にくい展開を想定。与党過半数が維持されれば、良好な企業業績を背景に徐々に下値を固めよう。</p> <p>【米国株】税制改正への期待から中小型株には買いが入りやすい。一方で利上げ観測の高まりやバランスシート縮小への警戒感から、グローバル企業を中心に上値は抑えられやすい。高値圏でもみ合う展開が想定される。</p>
長期金利	<p>【円金利】良好な需給環境に変化はないものの、米国金利が上昇基調にあるなか、金利は低下しづらい。一方、10年0.10%台では日銀による指値オペも意識され、結局0.00-0.08%を中心としたレンジ推移が見込まれる。</p> <p>【米金利】米金利は徐々に上昇する展開を見込む。良好な経済指標や米税制改革の進展により、利上げ見通しは上方修正されることが見込まれる。10月より量的緩和の縮小が始まることも、需給面でネガティブであり、上昇圧力となる。</p>

○今月の重要日程

2日(月)	米	9月ISM製造業景況感指数	19日(木)	中	17/3Q・GDP
6日(金)	米	9月雇用統計	22日(日)	日	衆議院選挙投開票
10日(火)	朝	北朝鮮労働党創建記念日	26日(木)	欧	ECB理事会
13日(金)	米	9月CPI	27日(金)	米	17/3Q・GDP<速報値>
13日(金)	米	9月小売売上高	30日(月)	日	日銀金融政策決定会合(~31日)
18日(水)	中	中国共産党第19回全国代表大会	31日(火)	米	FOMC(~11/1)

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

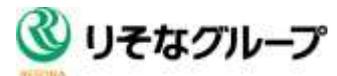
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2017年10月号)

2017/09/29



○今月の相場見通し① 為替

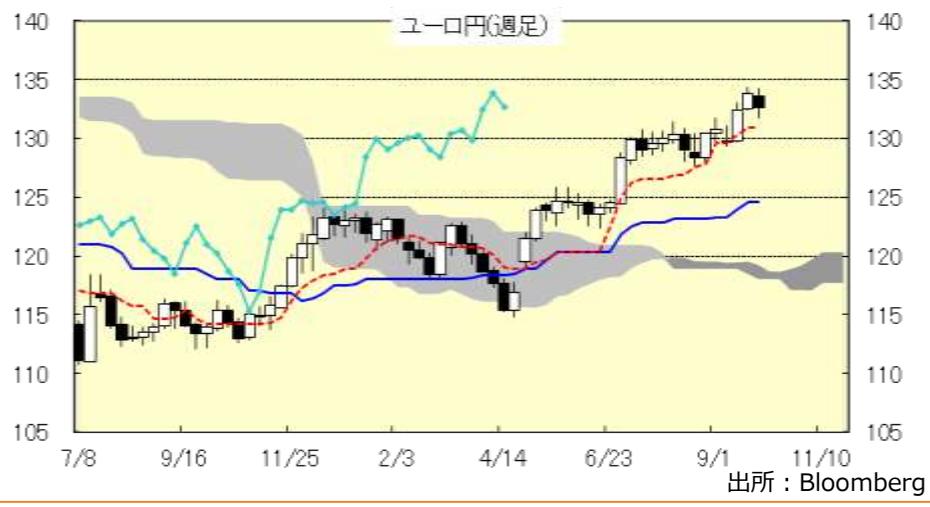
ドル 円



米ドル・円 ドル・円は上昇 **109.00 - 116.00円**

ドル円はじり高をを想定
 これまで発表された経済指標を踏まえれば、**ハリケーンの影響は一時的にとどまる公算が高い**。良好なファンダメンタルズを確認する中で、**徐々に年内の利上げ確度が高まる**ことが想定される。政治面では12月にかけての税制改革論議が焦点となる。9/27に税制改革案が公表されたが、これまで対立してきた共和党の保守強硬派も今回の案に賛意を示すなど、実現に向けて議論の進展がみられる。今後の議会との議論の中で紆余曲折も想定されるが、**月末にかけて予算委員会可決等、成立に向けた動きが見られれば、景気の押し上げ効果や来年の利上げ回数見通しの引き上げが話題となり、ドル円にはサポート材料となろう**。10/10北朝鮮の労働党創建記念日や10/22解散総選挙は波乱材料であり、イベント前後で振れる可能性はあるが一時的と想定。

ユーロ



ユーロドル ユーロドルは下落 **1.15 - 1.21ドル**
 ユーロ円 ユーロ円はもみ合い **128.50 - 136.00円**

ユーロはECB理事会にかけて売られやすい
 FRBの利上げ観測の高まりもあり、**ドルが買い戻されやすく、ユーロは上値の重い展開が想定される**。ドイツの連立工作が長期化していることも重石となり、じり安を見込む。但し、9月のECB理事会でドラギECB総裁は「量的緩和に関する決定の大半は10月に下す」とコメントしている。10/26のECB理事会にかけては、一方向のユーロ売りに警戒感も高まり、徐々に買戻しが入りやすい。**月末にかけては徐々に下げ進む展開を見込む。ユーロ円もECB理事会までは上値の重い展開となるが、ECB理事会後は底入れを想定**。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2017年10月号)

2017/09/29



○今月の相場見通し② 株式、長期金利

株式見通し



出所：Bloomberg

日経平均

⇒ 日経平均はもみ合い

19,250 - 21,000円

10/22の衆院解散総選挙は、新党の影響等の見極めが困難で、動きづらい。米国株や為替動向に振らされるも、**方向感の出にくい展開を想定**。与党過半数が維持されれば、良好な企業業績を背景に徐々に下値を固めよう。

NYダウ

⇒ ダウはもみ合い

21,750 - 23,000ドル

税制改正への期待から中小型株には買いが入りやすい。一方で利上げ観測の高まりやバランスシート縮小への警戒感から、グローバル企業を中心に上値は抑えられやすい。**高値圏でもみ合う展開が想定される。**

長期金利見通し



出所：Bloomberg

日本国債10年

⇒ 金利はもみ合い

0.00 - 0.12%

良好な需給環境に変化はないものの、米国金利が上昇基調にあるなか、金利は低下しづらい。一方、10年0.10%台では日銀による指値オペも意識され、結局**0.00-0.08%を中心としたレンジ推移が見込まれる。**

米国債10年

⇒ 金利は上昇

2.10 - 2.50%

税制改正への期待から中小型株には期待感が浮上しやすい。一方で利上げ観測の高まりやバランスシート縮小への警戒感から、グローバル企業を中心に上値は抑えられやすい。**高値圏でもみ合う展開が想定される。**

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

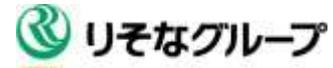
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2017年10月号)

2017/09/29



○マーケットカレンダー

【前半】

【後半】

	日本	米国	その他
10/1(日)			<中国 国慶節(-10/8)>
10/2(月)	7-9月期日銀短観	8月建設支出	(EU)8月失業率
		9月ISM製造業景況感指数	<香港 国慶節の翌日>
10/3(火)	10年債入札		(豪)準備銀行理事会
	9月マネタリーベース		<独 ドイツ統一の日>
	9月消費動向調査		
10/4(水)	国庫短期証券(6ヶ月)	9月ADP民間雇用調査	(EU)8月小売売上高
		9月ISM非製造業景況感指数	<中国 中秋節>
10/5(木)	10年物価連動国債	8月製造業受注	(豪)8月小売売上高
	国庫短期証券(3ヶ月)	8月貿易収支	(豪)8月貿易収支
10/6(金)	8月景気動向指数	9月雇用統計	<香港 中秋節の翌日>
	8月毎月勤労統計	8月消費者信用残高	(独)8月製造業受注
10/9(月)	<体育の日>	<コロンブス記念日>	(独)8月鉱工業生産
10/10(火)	9月景気ウォッチャー調査		(英)8月鉱工業生産・製造業生産
	8月国際収支		(独)8月貿易収支
10/11(水)	8月機械受注	9月財政収支	
	30年債入札		
	国庫短期証券(2ヶ月程度)		
10/12(木)	8月第3次産業活動指数		(EU)8月鉱工業生産
	9月貸出・預金動向		<ブラジル 聖母の日>
	国庫短期証券(3ヶ月)		(中)9月貿易統計
10/13(金)	9月マネーストック	9月CPI	
		9月小売売上高	

	日本	米国	その他
10/16(月)	8月稼働率	10月NY連銀製造業景況指数	(中)9月CPI
10/17(火)	20年債入札	9月鉱工業生産	(EU)9月CPI
		8月対米証券投資	(英)9月CPI
		9月輸入物価指数	(独)10月ZEW景気期待指数
10/18(水)	国庫短期証券(1年)	9月住宅着工	(英)9月失業率
10/19(木)	9月貿易統計	10月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(豪)9月失業率
	5年債入札	9月景気先行指数	(中)9月固定資産投資
	8月全産業活動指数		(中)7-9月期四半期GDP
	国庫短期証券(3ヶ月)		(中)9月鉱工業生産
			(中)9月小売売上高
10/20(金)		9月中古住宅販売件数	(独)9月PPI
10/23(月)		9月シカゴ連銀全米活動指数	(EU)10月消費者信頼感指数
10/24(火)		10月リッチモンド連銀製造業景況指数	
10/25(水)		9月新築住宅販売	(独)10月IFO景況指数
10/26(木)	2年債入札	9月中古住宅販売成約指数	(EU)9月マネーサプライ
	国庫短期証券(3ヶ月)		(英)BOE金融政策委員会
	日銀金融経済月報		(EU)ECB定例理事会
			(独)9月小売売上高
10/27(金)	9月CPI	7-9月期GDP速報値	
10/28(土)			<香港 重陽節>
10/30(月)	★日銀金融政策決定会合(-31日)	9月個人所得・消費支出	(独)10月CPI
	9月商業販売統計		
10/31(火)	9月鉱工業生産	★8月S&PコアロジックCS住宅価格指数	(EU)9月失業率
	日銀展望レポート	FOMC(-11/1)	(中)10月PMI製造業
	9月家計調査	10月シカゴ地区製造業PMI	(EU)10月HICP
	9月雇用統計		
	9月住宅着工件数		
	黒田日銀総裁定例会見		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

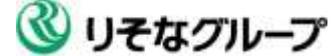
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2017年10月号)

2017/09/29



○市場動向

		16年12月末	17年3月末	17年6月末	17年8月末	9/28(木)	
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	116.55	112.81	112.00	110.42	112.96
		ユーロ・円(仲値)	122.79	119.81	128.02	131.34	132.67
		豪ドル・円(仲値)	84.38	85.82	86.24	87.51	88.73
		NZドル・円(仲値)	81.24	78.47	82.04	79.56	81.73
		ドル・円(15:30時点)	116.61	111.79	112.06	110.58	112.98
		ユーロ・円(15:30時点)	122.90	119.43	128.11	131.30	132.65
		ユーロ・ドル(15:30時点)	1.0538	1.0684	1.1433	1.1874	1.1741
		ドル円直先3ヶ月(3か月、銭/ドル)	d 55.0	d 41.3	d 45.6	d 46.8	d 54.6
N Y	ドル・円	116.96	111.39	112.39	109.98	112.34	
	ユーロ・ドル	1.0517	1.0652	1.1426	1.1910	1.1786	
	英ポンド・ドル	1.2340	1.2550	1.3025	1.2930	1.3442	
	スイスフラン・ドル	1.0190	1.0026	0.9579	0.9587	0.9702	
株式	東京	日経平均(225種/円)	19,114.37	18,909.26	20,033.43	19,646.24	20,363.11
		東証株価指数(TOPIX)	1,518.61	1,512.60	1,611.90	1,617.41	1,676.17
		日経ジャスダック指数	2,739.25	3,045.84	3,251.67	3,447.28	3,577.11
		東証マザーズ指数	942.68	1,070.89	1,181.74	1,100.80	1,079.12
		東証1部出来高(百万株)	1,667.86	2,222.23	1,968.97	1,770.35	1,603.58
	海外	NYダウ(ドル)	19,762.60	20,663.22	21,349.63	21,948.10	22,381.20
		ナスダック総合指数	5,383.12	5,911.74	6,140.42	6,428.66	6,453.45
		中国上海総合指数	3,103.64	3,222.51	3,192.43	3,360.81	3,339.64
		SENSEX(インド)	26,626.46	29,620.50	30,921.61	31,730.49	31,282.48
		ブラジルボベスバ指数	60,227.29	64,984.07	62,899.97	70,835.05	73,567.25
MICEX指数(ロシア/ドル建)	2,232.72	1,995.90	1,879.50	2,022.22	2,071.64		
商品	金(NY先物、期近)(ドル)	1,151.70	1,247.30	1,242.30	1,318.50	1,285.50	
	原油(WTI先物、期近)(ドル)	53.72	50.60	46.04	47.23	51.56	
	CRB先物指数	192.51	185.88	174.78	180.86	182.99	

		16年12月末	17年3月末	17年6月末	17年8月末	9/28(木)	
国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	-0.058	-0.060	-0.069	-0.066	-0.048
	日本円TIBOR	3ヵ月	0.05727	0.05727	0.05727	0.05727	0.05727
		6ヵ月	0.10636	0.10636	0.10636	0.10636	0.10636
	利付2年国債	新発債	-0.195	-0.224	-0.119	-0.170	-0.115
	利付5年国債	新発債	-0.114	-0.125	-0.070	-0.145	-0.070
	利付10年国債	新発債	0.041	0.065	0.084	0.000	0.065
	利付20年国債	新発債	0.570	0.630	0.590	0.535	0.595
	円/円スワップ	2年	0.02456	0.05065	0.04250	0.01632	0.03330
		5年	0.07509	0.10307	0.09877	0.06659	0.10523
		10年	0.22922	0.26436	0.25208	0.20805	0.26147
20年		0.65604	0.67917	0.63193	0.61113	0.65761	
海外金利	米金利	FFレート	0.50	0.81	1.05	1.07	1.16
		TB(3ヵ月)	0.497	0.752	1.011	0.991	1.047
		T-NOTE(10年債)	2.444	2.387	2.304	2.117	2.309
	LIBOR	日本円(3ヵ月)	-0.04657	0.02593	-0.00014	-0.02814	-0.04907
		米ドル(3ヵ月)	0.99789	1.14956	1.29917	1.31778	1.33500
		ユーロ(3ヵ月)	-0.33643	-0.35786	-0.37200	-0.37186	-0.37957
		英ポンド(3ヵ月)	0.36663	0.33744	0.30669	0.27744	0.33350
		スイスフラン(3ヵ月)	-0.72920	-0.72960	-0.73000	-0.72620	-0.72600
		豪ドル(3ヵ月)	1.80000	1.79000	1.71000	1.72000	1.71000
		NZドル(3ヵ月)	2.00000	2.00500	1.99000	1.96000	1.95000

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2017年10月号)

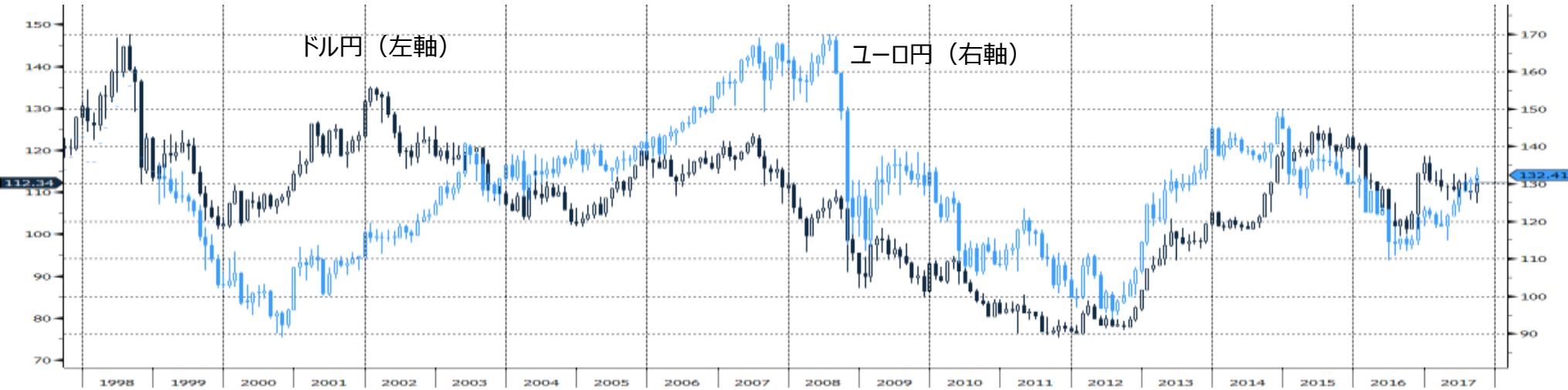
2017/09/29



○チャート集① 過去20年間の相場推移 (外国為替、株式)

出所：Bloomberg

ドル円とユーロ円



日経平均とNYダウ



◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー (2017年10月号)

2017/09/29



○チャート集② 過去20年間の相場推移 (長期金利、商品)

出所：Bloomberg

米国10年金利と日本10年金利



原油 (WTI原油先物) と 金 (NY先物)



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

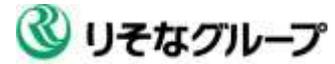
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2017年10月号)

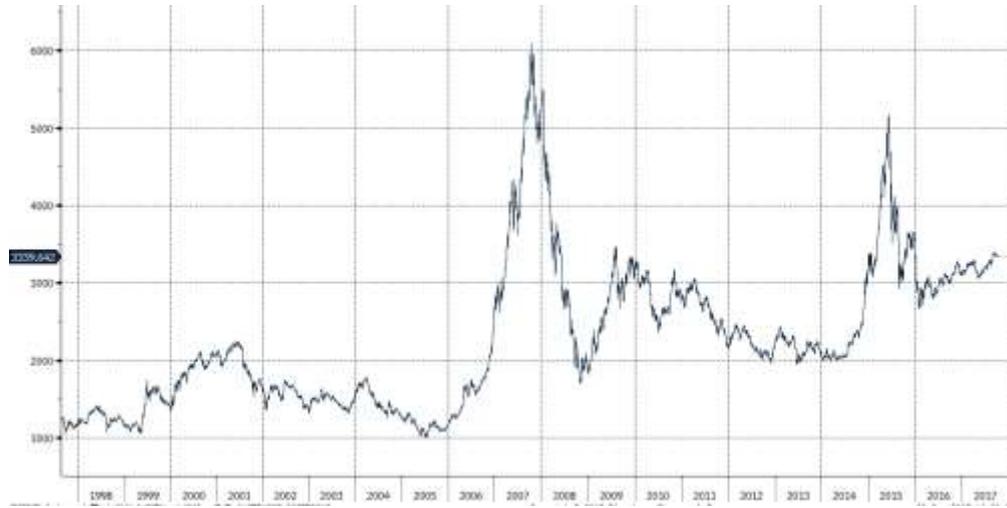
2017/09/29



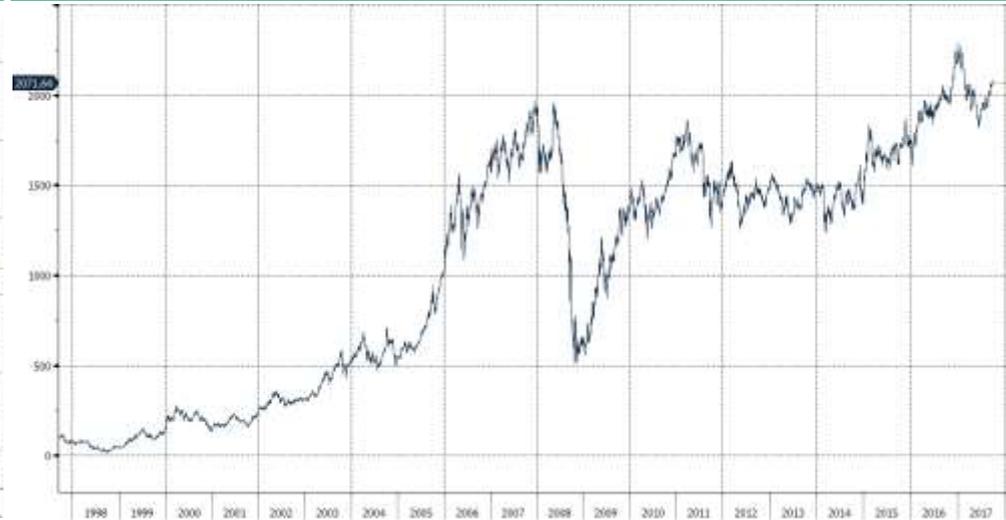
○チャート集③ 過去20年間の相場推移 (新興国株式)

出所：Bloomberg

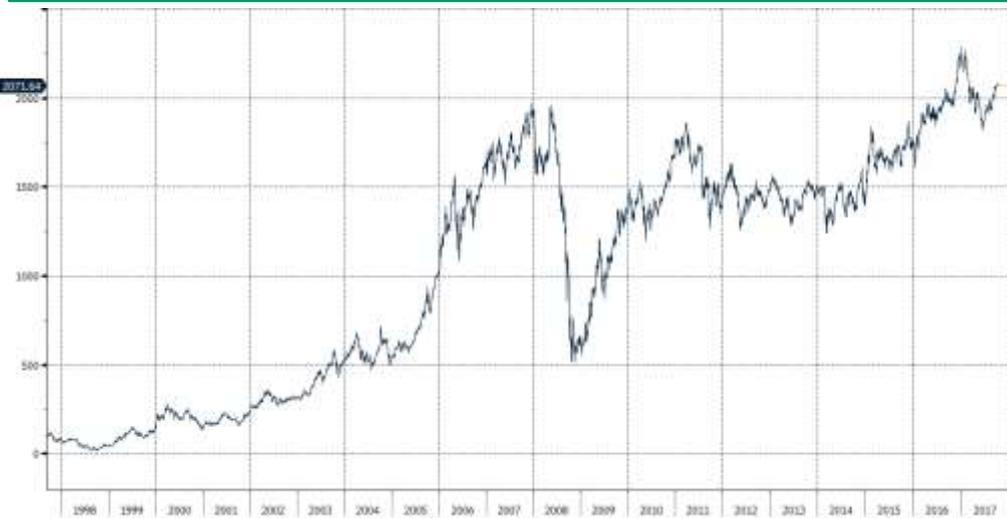
中国上海総合指数



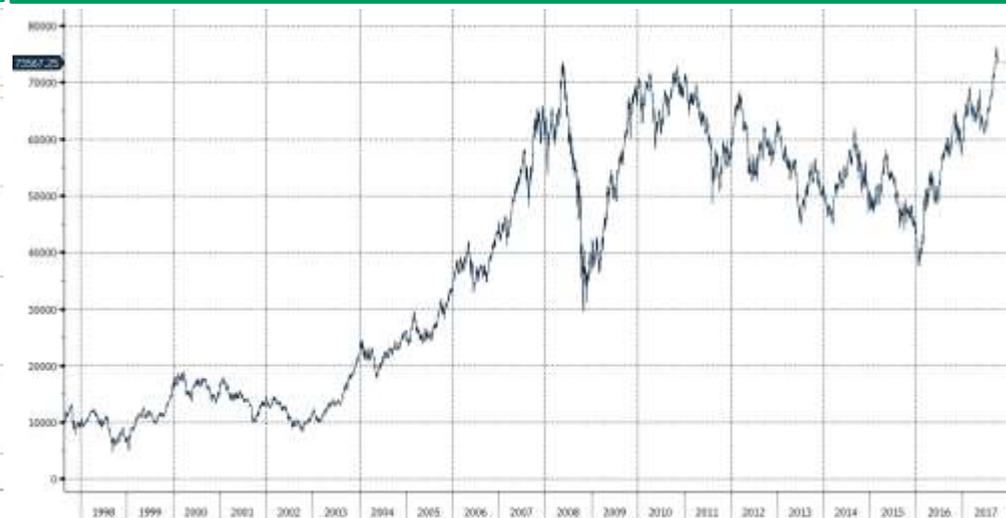
インドSENSEX指数



ロシアMICEX指数



ブラジルBOVESPA指数



◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎景気の現状と見通し① 日本

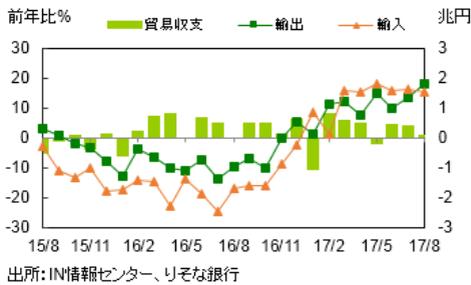
景気の現状

緩やかな持ち直し、消費と設備投資の持続性がカギ

日本経済は、緩やかな持ち直し。4-6月期GDPは内需の柱である消費・設備投資主導で高成長となった。今後は持続性が焦点となる。

- 1-1 4-6月実質GDP、消費・設備投資主導で高い伸び
2017年4-6月GDPの2次速報値は前期比+0.6%（1次速報+1.0%）に下方修正された。内訳をみると（1次速報→2次速報）、個人消費+0.9%→+0.8%、設備投資+2.4%→+0.5%と設備投資の下振れが目立った。
- 1-2 鉱工業生産、生産は持ち直しの動き
8月鉱工業生産は、前月比+2.1%と2か月ぶりのプラス。経済産業省の製造業予測調査によると、9月は▲1.9%、10月は+3.5%見通し。予測調査を前提とすると前期比+1.5%と6四半期連続のプラスが視野。
- 1-3 輸出増加で黒字拡大
8月貿易収支は1,136億円の黒字、3ヶ月連続の黒字。輸出は米国向け自動車の増加が目立ち、輸入は鉱物性燃料の前年比プラスが続く

貿易統計



機械受注

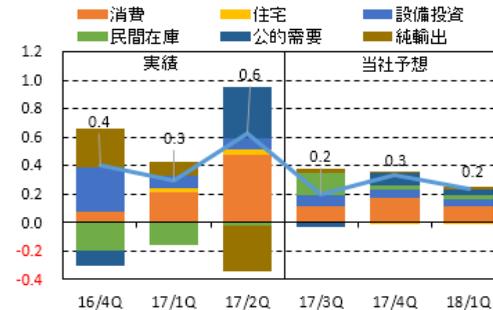


- 1-4個人消費、実質ベースで2か月ぶりのプラス
8月家計調査によると、1世帯当たり消費支出は、前年比+0.6%と2か月ぶりのプラス。
- 1-5製造業、非製造業（船舶・電力を除く）、外需が増加
7月の機械受注によると、船舶・電力を除く民間からの受注額は、前月比+8.0%の8,533億円と、市場予想（+4.1%）を上回った。製造業が2か月ぶりのプラス、非製造業は2か月連続のプラス。
- 1-6 消費者物価指数、総合、コアが共にプラス
8月消費者物価指数は総合CPIは前年比+0.7%、生鮮食品を除くコアCPIが前年比+0.7%となった。電気代が+7.0%と伸び率が拡大し、コアの押し上げに寄与した。

GDP予想

GDP予想 - 2017年度 +1.5%を想定

日本の2017年度の実質GDP成長率は前年度比+1.5%を想定。前月から0.4%ポイント下方修正。4-6月GDP2次速報を踏まえて改定。設備投資が大幅に下方修正されたことが要因。良好な雇用環境を反映した消費の改善と潤沢なキャッシュフローを背景とした企業の設備投資が進むとの前提に変化なし。補正予算の執行に伴い、公的需要も期待できる。



% 増減ポイント	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
	実績	実績	実績	予想
実質GDP	0.5	1.3	1.3	1.5
個人消費	-1.6	0.3	0.4	0.9
住宅投資	-0.3	0.1	0.2	0.1
設備投資	0.4	0.1	0.4	0.4
在庫投資	0.5	0.4	-0.4	-0.2
公的需要	0.0	0.3	-0.1	0.4
外需	0.6	0.1	0.6	0.0

【出所】IN情報センター、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

○景気の現状と見通し② 米国・欧州・中国

米国

8月の指標はまちまち

米国経済は、ハリケーンの影響を受けて、消費・住宅・生産のデータが低調となった。一方で景況感データは企業・消費共に良好。

4-6月期GDP確定値、前期比年率+3.1%（改定値+3.0%）

個人消費が+3.3%、設備投資が+6.7%と牽引した。一方、住宅投資は▲7.3%と減少に転じた。

8月雇用統計、非農業部門雇用者数は前月比+15.6万人

製造業+36千人（7月+26千人）と伸びが拡大する一方、サービス業は+95千人（7月+179千人）の伸びが鈍化した。賃金は前年比+2.5%と前月から変わらず、依然鈍いままであった。

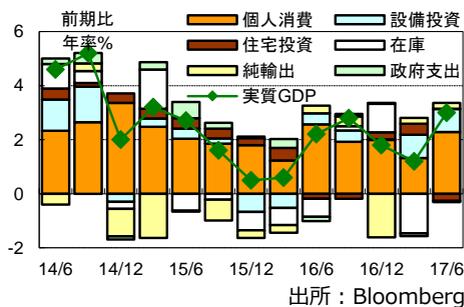
8月小売売上高は前月比▲0.2%、6、7月も下方修正

全13業種中5業種で売上が減少、自動車・同部品、無店舗小売、衣料品などが減少した一方、ガソリンスタンド、その他小売、家具などは増加した。

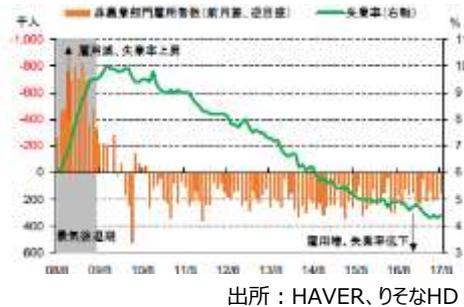
8月消費者物価、2カ月連続で上昇

総合は前年比+1.9%（7月+0.4%）、コアは前年比+1.7%（7月+0.2%）であった。

GDP



雇用統計



欧州

ドイツ経済、経済指標が強弱混在

ドイツ経済指標は依然として良好なものの、成長には弱まりがみられる。7月鉱工業生産は前月から変わらず、製造業受注は3か月ぶりに減少。8月小売売上高は2か月連続で低下。貿易面では、黒字幅が前月比縮小した。9月景況感指数は独Ifoは2か月連続で前月から低下、ZEW（期待）は4か月ぶりに改善した。

ユーロ圏の指標では、PMIは4か月ぶりの水準に上昇。物価面では9月消費者物価指数が前年比+1.5%（8月+1.5%）と横這い。

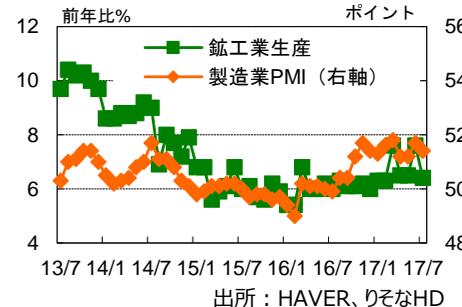
中国

8月の指標は総じて低調

8月の鉱工業生産は前年比+6.0%（7月+6.4%）、貿易は輸出額が前年比+5.5%（7月+7.2%）、小売売上高は前年比+10.1%（7月+10.4%）、固定資産投資（年初来）は前年比+7.8%（7月+8.3%）と鈍化した。

8月消費者物価指数（CPI）は前年比+1.8%と、7月+1.4%に比べ伸び率は拡大した。

鉱工業生産と製造業PMI



貿易統計

